

株式会社ビーエスFOX  
第15回放送番組審議委員会議事録

1. 開催日 : 令和元年5月21日(火)12:00~14:00
2. 開催場所 : 東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア16F
3. 委員の出席 : 委員総数 7名 / 出席委員数 7名

審議委員(敬称略): 菊地 実、鳥居 美砂、浅井 正義、阿部 清美、杉山 知之、  
田保橋 淳、本田 雅一

放送事業者側出席者氏名 :	ビーエスFOX 取締役	眞島 大介
	ビーエスFOX 監査役	杉田 真太郎
	マーケティング部 部長	岸本 裕子
	編成部 部長	伊藤 由起
	編成部	高橋 朋美
	編成部	後藤 圭介
	事務局	岩崎 壮一
	事務局	橋本 佳奈(記)

4. 議題:

- (1) 株式会社ビーエスFOX事業概況説明
- (2) FOXスポーツ&エンターテイメントより『インサイドホークス 捕手論「若菜嘉晴×甲斐拓也」2』についての番組審議
- (3) FOXより『POSE 第1話』についての番組審議※

※株式会社ビーエスFOXとしての番組審議対象ではないが、今回から、親会社であるFOXネットワークス株式会社の運営チャンネルからFOXとナショナルジオグラフィックの番組を交互に審議頂くこととなった。

5. 審議内容:

(1) 株式会社ビーエスFOX事業概況説明

FOX、FOX スポーツ&エンターテイメント、ナショナル ジオグラフィックの視聴世帯数推移と番組ラインナップについてご説明。衛星およびケーブルテレビの視聴世帯数は堅調、FOX およびナショナル ジオグラフィックについてはネット配信の契約者数が伸びている。ウォルト・ディズニー・カンパニーとの経営統合について現状のご報告。

(2)FOXスポーツ&エンターテイメントより『インサイドホークス 捕手論「若菜嘉晴×甲斐拓也」2』  
についての番組審議

<委員からの意見>

・野球に詳しくなくても分かりやすい内容だったが、構成はもっと工夫できたかと思う。焼肉を食べながらの対談で、プライベートな話題や、率直な話を引き出しやすい雰囲気は出来ていたが、食事の部分は編集で短くまとめても良かったのでは。また、対談形式であるにも係らず、いきなりスタッフからの質問が入ってくるのは違和感があった。

・捕手論というタイトルと番組内容にギャップがあった。タイトルからは専門的な、難しい内容だという印象を受けたが、中身はくだけていて親しみやすい内容だった。内容が伝わるようなサブタイトルをつけても良かったのではないかな。

・焼肉屋で対談を行うのは良いと思うが、話の立ち上がりに時間をかけすぎている印象。食事の部分は短くまとめ、キレよくテーマをもって掘り下げたほうが面白い番組になったのではないかな。

・スポーツの関連番組は飽和状態で構成が似たり寄ったりになりがち。大別すると予想論か結果論で、その大半は予想が当たったケースを扱う番組が多いが、負けたときや予想が外れたケースの番組を制作すれば面白いのではないだろうか。

・大変面白かったが、「捕手論」を語るのであれば、往年の名選手についてのデータや映像などをトリガーに話を掘り下げたり、甲斐選手と比較する等のアプローチがあっても良かったのでは。

・オリジナル番組制作への取り組み自体をまずは評価。捕手というポジションの人間が何を考えているか、プロフェッショナルな視点が分かる番組でよかった。

・「捕手論1」と今回の「捕手論2」で出演者2人の位置が逆になっていたり、字幕スーパーと実際の発言に差異がある箇所が複数あった。こういう細かいケアレスミスは放置せず、修正した方が良い。

・ある程度知識のあるファンが見る前提で作られている番組だと捉えれば問題ないが、ライトなファンや「捕手論1」を見ていない人も視聴することも考えると、データや用語についてもっと説明があっても良かった。

<事業者回答>

実際の放送では「捕手論1」と段積みになっていたこともあり、過去の名選手との比較やデータの活用など「捕手論1」と重複する部分を割愛してしまった。新しいファン視聴者へのアプローチは今後の課題だと考えており、頂いた意見を今後の参考にさせて頂く。

### (3)FOXより『POSE 第1話』についての番組審議

#### <委員からの意見>

- ・大変貴重な番組、ぜひ制作を続けて頂きたい。クリエイティブの世界ではLGBTQのカルチャーは高い評価を受けてきた。日本ではメディアや教育上の制限があり当時そこまで大きなムーブメントにはならなかったが、特にヨーロッパで大流行し、今でも絶大な影響力がある。
- ・当時のことが分からないので新鮮に見られた。ファッションや音楽のセンスが良く、視覚刺激の多い番組。結末が楽しみでもあり、リアルに描かれている分不安でもあり、続きが気になる。
- ・当時のアメリカでも大きな社会問題だったテーマを忠実に描いている番組だと思う。地上波やBSでは放送できない番組をCSで編成することには賛成。多様性を受容する、違いを克服するということはこれから大きなテーマなので、このような番組の制作・放送を続けて頂きたいが、日本で放送するには相当の配慮が必要。差別的な扱いをしていると捉えられないよう注意が求められる。思春期の子供が見ることも考えて放送時間も配慮したほうが良いのではないだろうか。萎縮する必要はないが、話題性を重んじすぎて暴走しないように。
- ・LGBTQが社会に受け入れられなかった頃の話を実際に描いており、今だからここまで描けるようになったのかなという印象。センシティブなテーマを扱っているので様々な意見が来るとは思うが、純粋にエンターテインメントとしても楽しめる番組で、音楽好きな人が見ると色々気づきも多い。
- ・エンターテインメントとして楽しんだ上で、この世界には多様な人がいる、多様な考えがあることに気づききっかけになれば良いと思う。映像作品としては、シーンごとにルックを変えていてとても丁寧な作り方がされている。ソフトに優しく描かれている。
- ・センシティブなテーマの番組を扱うにあたり、暴力や差別表現の扱いや、放送時間の配慮等についての放送局としての立場、ポリシーを明確に持つ必要がある。番組審議会でも番組自体ではなく、そのポリシーについて審議をするべきだと考えている。
- ・映像が綺麗。コンテストに勝って得られるものが「プライド」というシーンを通して、彼らの美意識や価値観について勉強になった。ファッションはとても美しかったが、ダンスシーンは今後に期待。

#### <事業者回答>

頂いた貴重なご意見を今後活かしていきたい。ローカライズに当たっても相応の配慮が必要だと考えており、字幕ではオリジナルよりソフトな表現を使用するケースもある。

以上